第 33 回 放送番組審議会議事録

2023 年 10 月

株式会社シーエス・ワンテン
株式会社テレビ朝日

1. 開催年月日　2023 年 9 月

2. 開 催 場 所　書面開催

3. 委員の参加
委員総数　8 名　参加　8 名
出席委員の氏名

委員長	池井　優	（慶応義塾大学 名誉教授）
委　員	黒鉄　ヒロシ	（漫画家）
委　員	高木　美也子	（東京通信大学 人間福祉学部教授）
委　員	戸張　捷	（株式会社ランダムアソシエイツ 代表取締役）
委　員	藤田　興彦	（学校法人和田実学園 評議員）
委　員	前田　純弘	（昭和女子大学現代ビジネス研究所 特別研究員）
委　員	元村　直樹	（明治大学法学部兼任講師）
委　員	四本　裕子	（東京大学大学院 総合文化研究科教授）

放送事業者側出席者氏名

株式会社シーエス・ワンテン

代表取締役社長	福田　泉
業務推進本部長	渡辺　慎一

株式会社テレビ朝日

コンテンツ編成局総合編成部長	河野　太一
コンテンツ編成局総合編成部サテライトメディア担当部長	北村　和之
コンテンツ編成局総合編成部	檜谷　彰
コンテンツ編成局総合編成部	辻　慈生
ビジネスプロデュース局 CS 事業部長	松久　智治
ビジネスプロデュース局 CS 事業部 CS 編成担当部長	中口　裕丈

4. 議　題
「テレ朝チャンネル 1」、「テレ朝チャンネル 2」の番組について

◆テレ朝チャンネル 1 番組審議
「チーム 8 最後の密着ドキュメンタリー『AKB48 Team8 9 年間のキセキ』監督：高橋栄樹」
＜番組概要・企画意図＞
2014 年の全国一斉オーディションにて 47 都道府県から 1 人ずつの代表を選出、47 人のメンバ

ーで結成されたAKB48チーム8。AKB48を構成する5つ目のチームとして、「会いに行けるアイドル」として活動してきたAKB48から発展、全国各地のファンのもとへ「会いに行くアイドル」をコンセプトに活動を続けたチーム8が、2023年4月30日（日）横浜・ぴあアリーナMMでの『AKB48チーム8春の総決算祭り』を最後に活動休止を発表。当番組の企画はここからスタートしました。

構成・演出は映画監督・映像ディレクターの高橋栄樹氏。AKB48の「DOCUMENTARY of AKB48 Show must go on少女たちは傷つきながら、夢を見る」(2012年）などの劇場公開映画のほか、「大声ダイヤモンド」「10年桜」「涙サプライズ」「言い訳Maybe」「RIVER」「ポニーテールとシュシュ」など代表作のMVをはじめ、THE YELLOW MONKEY、Mr.Children、ゆず、エレファントカシマシなどメジャーアーティストのMVも手掛けてきた高橋監督。チーム8も結成当初から追い続け、５本の記録映像を制作した高橋監督ならではの視点で、厚みのある映像ドキュメンタリー作品に仕上がりました。

47都道府県から1人ずつという方針がゆえ、メンバーが卒業するとその都道府県で欠員補充オーディションを開いていましたが、コロナ禍では欠員のまま継続、活動休止コンサートは29名のメンバーで開催されました。番組では、このコンサートをもって卒業した2名を除くメンバー27名をコンサートの翌日に集めて座談会を収録。会話にあがったキーワードを過去映像で広げ、時間軸に沿って振り返る構成となりました。高橋監督は「前向きな印象を目指した」といいます。

＜委員意見＞

・全国ツアー後は芸能人というより、楽しい修学旅行を終えて帰ってきた生徒のようで、初々しさが感じられ、これが人気の秘訣かと納得した。
・本当のプロのパフォーマンスではないところがチャームポイントなのか？
・年齢幅も広いコアではないファンの生の気持ち、声も聞きたかった
・ むしろ 辞めていくメンバー に興味をひかれ、その理由も聞いてみたかった。
・コアなファン以外にも、総選挙の仕組み、学業との両立についての解説があるとより理解が深まる。

＜番組担当者から＞

この度は貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。
Team8 の「総集編」として 9 年間の活動を追った当番組について、各都道府県からのメンバーの名前や出身地も字幕つきで表示されているなどの工夫で、「幅広いファンにとって魅力的な番組になっている」というお言葉をいただき、大変ありがたく思います。

また、アイドルとしてパフォーマンスレベルが成長していく過程だけではなく、順位意識やメンバーの「卒業」や「加入」によって新陳代謝を促していくアイドルビジネスの構造についても言及いただき、アイドルの多面的な側面を見ていただけたのではないかなと思います。

一方で、「9 年間の活動を支えたファンの声を聴きたかった」「やめていくメンバーを深堀していくことでアイドルの本質が描けたのではないか」などのご指摘もいただき、いただいた意見を反映することで、より立体的にTeam8を描けたのではないかと感じました。

今後もCS放送では、ファン向けに、アーティストへのインタビューやメイキング等、舞台裏に密着した作品を放送することがあると思うので、委員の皆様から頂戴したご意見を今後の番組制作・編成の参考にいたします。

◆テレ朝チャンネル２番組審議

『ファンタジー・オン・アイス 2023 幕張公演 舞台裏 SP』

＜番組概要・企画意図＞

オリンピックや世界選手権で活躍する一流スケーターたちが一堂に会し、数あるアイスショーの中でもひときわ豪華でエンターテインメント性の高い、ファンタジー・オン・アイスが今年も各地で開催され、5 月の幕張公演も好評のうちに終了。このショーならではの、アーティストとのコラボでは、ライブの力強い歌声とスケーターの美しい滑りが融合し、人々を新たな世界へと誘いました。

CS テレ朝チャンネルでは、スケーターのインタビューを交えて各日の公演をお送りしたファンタジー・オン・アイス完全版のほか、この「舞台裏 SP」を放送しました。「舞台裏 SP」では、リンク上でのパフォーマンスに加え、衣装合わせやリハーサル風景、スケーターたちが演技の合間に見せる素顔をバックステージでの密着映像でたっぷりとお送りしました。

今回は、スケーターたちの演技制作にかけるそれぞれの想いはもちろん、アーティストコラボが完成へ・・・三原舞依×夏川りみ「花」にまつわる秘話、このツアーを最後にショーからも引退を表明していたジョニー・ウィアーの特別企画、羽生結弦が会場を魅了した DA PUMP の名曲「if...」とのコラボパフォーマンスを 4 画面マルチアングルでお見せする企画をメインにお届けしました。

＜委員意見＞

・振付師がいてダンスを作り上げていく過程が分かって面白かった。
・もう少しきめ細かい舞台も見たかった。
・ファンにとっては練習の様子や楽屋での表情等々は貴重なものだと思う。
・個人競技ではあるが、裏にある人と人のつながり、先輩から後輩へ継承されていく歴史を垣間見ることができた。
・4 面マルチ画面への取り組みは大変興味を持った。
・舞台裏での各選手のインタビューやコラボするアーティストといかにマッチさせるかの演技制作に対する熱い想いが伝わった。

＜番組担当者から＞

この度は、貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。

競技とは違うフィギュアスケートの魅力、アイスショーの魅力をお伝えするという番組企画意図で制作いたしました。

この「ファンタジー・オン・アイス」は、その時代時代のトップスケーターが出演され、生歌とスケートのコラボレーションがこのショーのオリジナリティで、多くのファンに支持されています。

昨年プロスケーターとなった羽生結弦選手はこのショーでは、座長的なポジションであり、今年はダンスと融合した演技を披露し、新たな形での表現に挑戦している姿を見せてくれました。

そして、10 年以上ファンタジー・オン・アイスのレギュラーとして活躍した元全米王者ジョニー・ウィアーさんが今年、最後のツアーとなるとのことで、彼のスケート人生を称える企画はできないものか、事前にスタッフで考え、出演スケーターにインタビューをし、過去の映像を紐解きウィアーさんのプロスケート人生を一部切り取らせていただきました。「信号もない村

で育った」ウィアー選手の生い立ちを初めて知り、また未来に向かって後輩へ繋ぐ姿に、スケートを超えた人間性を感じた企画となりました。

そして、ジョニー・ウィアーと同世代のスケーター荒川静香さんは、スケートボードで、ウォームアップをされるお茶目なところを見せていました。プロスケーターとして１７年経った今でも、毎日練習を続け、今でも現役時代とかわらぬスケーティングを披露し、円熟した演技を見せてくれています。「子供がいる今だからできる演技」と自ら選んだミスサイゴンは、荒川さんの流れるスケートと表現で、ファンをうならせました。

現在のフィギュアブームは荒川さんの金メダルから始まったといっても過言ではありません。ファンタジー・オン・アイスも、2010 年に始まり、フィギュアスケートというスポーツが円熟していく姿をみせてくれるアイスショーでもありました。

委員の皆様のご意見をもとに、今後の番組作りにも役立ててまいります。

5. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日

今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた 2023 年 9 月以降、各番組のプロデューサー、担当者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、更なる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めています。

6. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日

2023 年 10 月以降に、ホームページに審議会概要を掲載するとともに、放送番組としても公表する予定です。

7. その他の参考事項

次回の放送番組審議会は 2024 年 3 月に開催予定。

以上